

「キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住ませなさい。」

コロサイ 3:16 キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住ませ、知恵を尽くして互いに教え、互いに戒め、詩と賛美と霊の歌とにより、感謝にあふれて心から神に向かって歌いなさい。

ローマ 12:2 この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい。

皆さん、おはようございます。今日ここで皆さんにお会いできて光栄です。この2年間、アリストテア牧師に機会をいただいて、数カ月に一度ここで説教をさせていただいています。今日もまた、こうして皆さんの前に立たせていただいています。ご存知のように、去年は私の好きな聖書箇所とその主題を取り上げたシリーズ説教をお分かちしました。今日は、アリストテア牧師も私も大切にしているテーマについてお話します。今日の説教の題名は、「キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住ませ…」というコロサイ 3章 16節のみことばから取りました。

「キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住ませ…」

では、「キリストのことば」とは何でしょう。どのようにして、そのキリストのことばを「あなたがたのうちに（私たちのうちに、私のうちに）豊かに住ませ」ればよいのでしょうか。今日そのようなことについてお話したいと思います。

今日はもうひとつ聖書箇所をお分かちします。ローマ 12章 2節です。「この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい。」

この世と調子を合わせてはいけません…

心の一新によって…

自分を変えなさい…

先ほどお話した「キリストのことば」は、キリストに関することば、またキリストが弟子たちに語られたことば、初代教会時代に使徒たちが教えたことば、新約聖書に記されたことばを指します。イエス・キリストは旧約聖書の預言の成就であり、神の御子ですから、もう少し広げて考えると、私たちに対する神の救いのメッセージである聖書のことばを私たちのうちに豊かに住ませる、と説明できるのではないのでしょうか。

これは、ローマ 12:2にある「…心の一新によって自分を変えなさい。」という勧めを実践するために、不可欠な要素です。心を一新する最善の方法は、聖書のみことば、とくに福音書と書簡に記されたみことばを私たちのうちに豊かに住ませることです。

みことばを読んで、その内容について考え、思いをめぐらし、自分自身の考えに取り入れます。そして、大切なのはそれを実践することです。私はこれまでそのようにして生きてきました。そして今日、皆さんにもそうするようにお勧めします。聖書に親しむことをお勧めします。実践方法もいくつかご紹介します。今日のメッセージでも、私の個人的な証をお話します。神のみことばに親しみ、それを実行しましょう。

実行するとは、とりあえず1-2度試してみるということではありません。聖書の勧めに繰り返し従うということです。それが自分の考え方や生き方にしっかり定着するまでやり続けるのです。聖書通読

をしていると、正すべき振舞いがどんどん示されます。そのプロセスをうまく進めていくためには、聖書の教えに従い続けるよう自らを訓練しなくてはなりません。

さて、この「訓練」という言葉ですが、英語では「しつけ」や「弟子」という言葉と関連があります。「しつけ」を辞書で調べると、「規律や行動規範に従うよう人を訓練すること」とあります。「弟子」については、「ついていく人、教師または指導者または哲学者などの生徒」とあります。「弟子」とは、特定の師匠についていく人です。弟子は、行動規範に従うよう訓練中の人です。行動規範に従うよう訓練中の人。私たちクリスチャンの行動規範は、おおむね新約聖書に記されています。そして、イエス・キリストの福音に関わる旧約聖書の内容もしかりです。

ここでコロサイ 3 章 16 節をお読みしましょう。

「キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住ませ、知恵を尽くして互いに教え、互いに戒め、詩と賛美と霊の歌とにより、感謝にあふれて心から神に向かって歌いなさい。」

私たちはキリスト教の聖書を完全に私たちのうちに住ませるべきです。それには知恵が要ります。そして、互いに教え戒め合わなくてはなりません。つまり、ひとりひとりが聖書を学び、その実践法を身につけたら、その知識を信徒同士で分かち合うべきだということです。また、道を逸れそうな兄弟姉妹がいたら、戒めてあげるのです。

それを実行する方法として、詩と賛美と霊の歌が挙がっています。昔から、歌や賛美はクリスチャンが伝える偉大な真理を会衆に想起させる手段として用いられてきました。

詩と賛美と霊の歌について語る聖書箇所がもうひとつあります。エペソ 5 : 17-19 を読みましょう。

「5:17 ですから、愚かにならないで、主のみこころは何であるかを、よく悟りなさい。 5:18 また、酒に酔ってははいけません。そこには放蕩があるからです。御霊に満たされなさい。 5:19 詩と賛美と霊の歌とをもって、互いに語り、主に向かって、心から歌い、また賛美しなさい。」

コロサイ 3 : 16 では、詩と賛美と霊の歌について記される直前に、「キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住ませ」なさいという勧めがあります。このエペソ 5 章のみことばでは、詩と賛美と霊の歌について記される直前に、御霊に満たされなさいという勧めがあります。

どちらも重要な教えです。聖書のことばに完全に満たされ、私たちのうちに住ませること。そして、聖霊に完全に満たされ、私たちのうちに住ませることです。

私はヨハネ 15 章のみことばを読むと感動します。これは、イエスがご自身をぶどうの木にたとえておられる箇所です。そして、ご自身の弟子たちをぶどうの木の枝と呼ばれます。1 節でイエスは、「わたしはまことのぶどうの木であり、わたしの父は農夫です。」とおっしゃいます。

4-5 節は次のように続きます。

「15:4 わたしにとどまりなさい。わたしも、あなたがたの中にとどまります。枝がぶどうの木についていなければ、枝だけでは実を結ぶことができません。同様にあなたがたも、わたしにとどまっていなければ、実を結ぶことはできません。 15:5 わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。」

キリストにとどまる。この「とどまる」という単語は、「住まう、そこに住居を置く」という意味です。私たちはキリストにとどまります。つまり、キリストのうちに住居を置くのです。4 節冒頭には、「わたしにとどまりなさい。わたしも、あなたがたの中にとどまります。」とあります。私たちが主のうちに住居を置き、継続的に主と交わり、主の教会とも関わるだけでなく、主が私たちのうちに住居を置いてくださいます。主が私たちのうちに住まわれるのです。私たちのうち

にとどまるのはキリストのことばだけではありません。キリストご自身にとどまっていたくのです。

私のスタディバイブルには、次のようなコメントがあります。「『わたしにとどまりなさい』とは日常のかつ個人的なイエスとのつながりを保持することである。その関係の特徴は、信頼、祈り、従順、喜びなどである。」ここに記されているのは、日常のかつ個人的なイエスと、信頼、祈り、従順、喜びに満ちたつながりを保持しなさい、という勧めです。

私たちは主のうちに住居を置きます。主も私たちのうちに住居を置いてくださいます。今日の主要聖句には、キリストのことばを私たちの心と思いのうちに豊かに住まわせるべきだと教えます。

私たちがイエスという木の枝であるなら、このお方から必要な栄養素を得ます。このお方からいのちそのものをいただきます。ヨハネ 15：8 は語ります。「あなたがたが多くの実を結び、わたしの弟子となることによって、わたしの父は栄光をお受けになるのです。」

私たちがキリストにとどまり、このお方から栄養を得ると、私たちは多くの実を結びます。実り多い人生となります。そして、その実りこそが、私たちが主の弟子である証となります。主とその教えに学び従う者であることを証してくれるのです。

10-11 節は次のように締めくくります。

「15:10 もし、あなたがたがわたしの戒めを守るなら、あなたがたはわたしの愛にとどまるのです。それは、わたしがわたしの父の戒めを守って、わたしの父の愛の中にとどまっているのと同じです。15:11 わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちにあり、あなたがたの喜びが満たされるためです。」

喜び。キリストの喜びが私たちのうちにあり、私たちの喜びが満たされる…完成されるのです。これは私の証です。私がこれまでに学んだのは、主の道を忠実に歩むなら、実を結ぶことができ、充足感を得るということです。すると喜びを感じます。主のみことばに従うとき、私たちは主のみこころに従うことになるからです。

今日のメッセージでは、私たちの心と思いに聖書のみことばを取り入れる方法、そしてみことばに従って実行する方法についておもにお話したいと思います。

方法 1：日頃から頻繁に聖書を読む。

毎日聖書を読む、と言う人もいるでしょう。毎日読むのが理想的ですが、律法的にならないため、毎日に固執したくありません。聖書には、毎日欠かさず聖書を読まなければならないとは書かれていません。キリストに関する基本的真理を私たちの心と思いに完全に受け入れ、豊かに住まわせていなくてはならない、とは教えています。そのためには、神のみことばを日頃から頻繁に心に取り入れることは不可欠です。読むのもひとつの方法ですが、他にも方法はあります。教会や学校、家庭で教える聞くこともできます。現代は識字率も高く、聖書は自由に流通されているので、私たちは自分の聖書を所有して好きな時に読める恵まれた環境にいます。

聖書は「私たちに宛てられた神からのラブレター」だと言われます。何ともうまい表現です。聖書には、神がご自身と御子について私たちに知らせたい本質的な事柄と、私たちがどう生きるべきかが記されています。（神から命を与えられているのですから、当然です。）ですから、私たちは時間を取ってこの本の内容に親しみ、そこに記されたクリスチャンの原則に則って生きるべきです。

一度は聖書通読をしてみるのがよいでしょう。何度か通読できればなおよいでしょう。新約聖書にはクリスチャンのメッセージが込められているので、新約聖書は何度も繰り返し、そして頻繁に読みましょう。

さまざまな聖書通読表が存在します。一年または二年で聖書一冊を読み切れるように計画されたもの、一年で旧約聖書を一度と新約聖書を二度読めるように計画されたもの等があります。創世記から黙示録まで一日数章ずつ読むものもあれば、新約聖書と詩篇や箴言を少しずつ一年間読むタイプのものもあります。自分にあった通読表を選びましょう。

その日に読む聖書箇所とは別に、詩篇や箴言を毎日少しずつ読むという人もたくさんいます。私もその方法で年間通読をしたことがあります。箴言全部を読むひとつの方法は、1ヶ月間、一日一章読むことです。箴言は31章あるので、たいていの月は31日までですから、その月の1日に1章を読み、2日に2章を読み、と読み進めることができます。私は何度もこの方法を使いました。

1977年、私は大学一年のクリスマスにニューアメリカンスタンダード訳の聖書をもらいました。これは英語の聖書の中でも原語に忠実でかつ読みやすいと言われていました。(NIV訳が発行される前の話です。)それで私は、1978年にその聖書を一年で通読しました。当時、まだ私は新生したクリスチャンではありませんでしたが、聖書通読が非常に大切だとわかりました。1979年のしゅろの主日に私は新生しましたが、その話は今年のまた別の機会にお分かります。私は20代のころに聖書通読を5-6回しました。その後、新約聖書を繰り返し読むことに専念しました。そして、詩篇、箴言、伝道者の書、創世記、ヨブ記、イザヤ書といった旧約聖書の書も新約聖書と同じくらい読みました。4年ほど前にアリスティア牧師が年間聖書通読を私たちに勧められた時、私にとっておそらく聖書通読10回目となりました。

次の要点に進む前にもうひとつお話ししておきたいことがあります。私は、クリスチャンになってまもなく学んだことがあります。それは、聖書を読むときは祈りから始めるべきだということです。神が心と思いを開いてくださり、みことばの語りかけに応答できるように、その日神が教えようとなさることを察知できるように、と祈るのです。聖書を開くときはいつも、心を開き、謙虚な姿勢で向き合わなくてはなりません。そして、今日読むみことばを悟らせてくださいと聖霊に願い求めるのです。

聖書を読む方法2：ジョン・マッカーサー師から学んだユニークな方法をお分かります。先ほどまで、聖書通読をお勧めしてきました。聖書通読をすると、聖書のメッセージの全容がつかめます。けれどもここで、私にとって非常に役に立った方法を皆さんにお話ししましょう。その方法に特定の名称があるかは知りませんが、聖書の同じ箇所を続けて一か月間毎日読みます。だいたい3-6章ほど、同じ聖書箇所を一か月間繰り返し毎日読むのです。ジョン・マッカーサー師がこの方法についてメッセージテープで説明していました。マッカーサー師自身は最初、ヨハネの手紙第一を30日間毎日読んだそうです。ヨハネ第一には5章までであるので、約20分かかります。この方法を実践するのに適当な量です。エペソやピリピなど、短い書簡ならどれでも試せます。ローマやヘブルなど比較的長い書簡の場合は、3つくらいに分けて、最初の部分を1ヶ月目、次の部分を2ヶ月目、と読むと、3ヶ月で書簡を読み切れます。

この方法を取ると、その書に深く親しめます。あらすじ、テーマ等がよくわかります。読んでいて、最初の数日にはわからなかった箇所が、繰り返し読むことでわかるようになっていきました。たいていの場合、わからない箇所の答えは、その箇所の前後にありました。書簡の各部分がどのようにつながっているかという関連性もわかるようになりました。各書をたまに読むだけでは、そのような関連性を見いだすに至らないでしょう。一方、同じ聖書箇所と一か月間向き合うことで、各書のあらすじやテーマを把握できるようになり、最初はわからなかった箇所がやがてわかるようになります。

私はこれまでにすべての書簡と黙示録でこの方法を試しました。また、ヨブ記、伝道者の書、創世記でも試し、そしてヨナ書などいくつかの小預言書もこの方法で読んだことがあります。けれども、福音書や使徒の働き等の書は長すぎてやっていません。書簡と福音書を比べると、各章の長さがずいぶん違うのに皆さんは気づいていますか。書簡では各章は平均20-30節程度です。福音書では、40節、60節、70節というものまであります。それほどの量を何章も毎日一か月読もうとするのはたいへんです。それで、福音書の場合は2-3章を毎日繰り返し一週間読むことにしました。そしてまた次の2-

3章を翌週に読むというやり方をしました。この毎日同じ個所を一週間読む方法で、旧約聖書の書もいくつか読みました。

同じ聖書個所を毎日読むことがどれだけ有益かについてもっと話せますが、とにかく自分に合うかどうか試してみてください。

ここまでで、みことばを心と思いに取り入れるふたつの方法を紹介しました。他にも違った方法をご紹介する予定ですが、その前に少しお話しておきたいことがあります。戒めと警告の言葉です。

聖書を読んで学ぶのは、単に聖書の知識を頭に詰め込むためではありません。それを実行する必要があります。それこそが、心と思いにみことばを取り入れる目的です。「キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住ませ」というコロサイ3:16の戒めに従うとは、単に読んで学ぶという意味ではありません。そのことばに変えていただくのです。「豊かに住ませ」とは、その教えや戒めによって行いが変えられ、キリストの似姿へと変えられた人になることです。

私の好きな個所のひとつは、テモテ第一1章5節です。「1:5 この命令は、きよい心と正しい良心と偽りのない信仰とから出て来る愛を、目標としています。」クリスチャンの教えの目標は、聖書のみことばを知識として蓄積することではありません。目標は、人が変えられることです。きよい心と良心と偽りのない信仰とから出てくる愛です。

もうひとつ私の好きなみことばは、ヤコブの手紙にあります。この書には、クリスチャンが信仰を実践することについて実用的な事柄がたくさん書かれています。ヤコブ1:22-25は次のように語ります。「1:22 また、みことばを実行する人になりなさい。自分を欺いて、ただ聞くだけの者であっては いけません。1:23 みことばを聞いても行わない人がいるなら、その人は自分の生まれつきの顔を鏡で見る人のようです。1:24 自分をながめてから立ち去ると、すぐにそれがどのようであったかを忘れてしまいます。1:25 ところが、完全な律法、すなわち自由の律法を一心に見つめて離れない人は、すぐに忘れる聞き手にはならないで、事を実行する人になります。こういう人は、その行いによって祝福されます。」

私たちは、みことばを読むだけ、聞くだけの人になってはいけません。みことばを実行する人、みことばに則って行動する人にならなくてはなりません。「完全な律法…を一心に見つめて」それに従う必要があります。そのような人は祝福されます。

「完全な律法…を一心に見つめ」る。この概念からたどり着くのが、神のみことばを心と思いに取り入れる3つめの方法です。聖書をただ読んだり、繰り返し読んだりする以上に、聖書の特定の個所について黙想するのはよいことです。みことばを1-2節ほど暗記して、目を閉じ、その個所についてしばらく黙想する、という人もいます。その方法が合う人もいますが、私には合いませんでした。目を閉じると、すぐに関係ないことを考え始めてしまうからです。私の場合は、聖書を読んでいて、特に気になる個所があれば、そこを改めて読み返し、自分の生活にどうあてはめるか考えます。聖書を開いて座り、目を開けたまま、その個所について考えるのです。自分の人生で何か変えるべき事柄が示される場合もあります。キリストと天で過ごす栄光に満ちた未来について教えられる場合もあります。または、それまで気づかなかった神学的に興味深い側面に出くわすこともあります。そんなときに私がするのは、座って読み返し、考えることです。自分のふるまいをどのように変えるべきかを考えたり、そこに記された神学的真理がどのようにキリストとともに過ごす未来について今の自分に希望を与えてくれるかについて思い描いたりします。私は、このようにしてみことばに思いをめぐらします。

方法4: 帰納的聖書の学び

私は大学生のときにこの方法を習いました。けれども当時はこう呼ばれていませんでした。ただ、聖書を読むときには、特定の個所に込められたメッセージと自分自身への適用の仕方を理解するためには、こういうアプローチをすべきだと教えられました。一度に学べる量はさまざまです。一段落、一章、1-2節でもできます。この方法には3つのステップがあります。観察、解釈、適用です。

観察：はじめに、その聖書箇所が語っている内容を観察します。ここで、この箇所は何を語っているのか、という問いに答えます。ノートにその観察の内容を書き留めておくとよいでしょう。辛抱強くその箇所が語っている内容を徹底的に掘り下げましょう。

解釈：この箇所はどのような意味か、という問いに答えます。慎重に観察すれば、その箇所の意味の解釈へと導かれます。つまり、何を教えようとしているかです。初めから注解書やスタディバイブルに頼らないようにしましょう。ジョン・マッカーサー師もそのようにアドバイスしていたのを覚えています。初めから注解書に頼らず、自分でまずその箇所に取り組みましょう。そのうえで、自分の考えを確認する意味で、注解書を読みましょう。私は10年前までスタディバイブルを使っていませんでした。妻のNIV訳スタディバイブルが非常によいことを知り、その後、ESV訳スタディバイブルをいただきました。こちらはさらに詳しい内容です。

適用：この箇所の意味は私にどうあてはめられるか、という問いに答えます。聖書にはあらゆる文学ジャンルの書が含まれています。新約聖書は旧約聖書の一部の箇所に比べて私たちの生活により関わりが深いと言えます。けれどもたいていの場合、どの聖書の箇所からも有益な教えを得ることができません。テモテ第二3：16-17を読みましょう。「3:16 聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。3:17 それは、神の人が、すべての良い働きのためにふさわしい十分に整えられた者となるためです。」

方法5：聖句暗唱

アリストア牧師から聖句暗唱については何度も聞いたと思います。これは素晴らしい方法です。主要な聖句を頑張って暗記し、時折そのみことばを思い起こしてその真理を心に浸透させるなら、「キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住まわせ」、考え方を覚えていただくことを実践していることになります。始めるのは若ければ若いほどよいです。もちろん、若い時からと言ってももうそれほど若くない人もいますでしょう。けれども、子どもや生徒等、身近にいる若い世代に暗唱聖句を始めるよう励ましてはいかがでしょう。私は子どものころに、いくつかの聖句を覚えていました。

ヨハネ3：16「神は、実に、そのひとり子を…」

ヨハネ第一1：9の罪の告白について。

ヨハネ第一4：19「私たちは愛しています。神がまず私たちを愛してくださったからです。」

大学時代、学内のクリスチャンクラブに入りました。そこで、メンバーになるためにいくつかの聖句を暗唱しました。今も覚えていますし、いくつかは今もとても大切にしているみことばです。ヨシュア記1：8「この律法の書を、あなたの口から離さず、昼も夜もそれを口ずさまなければならぬ。そのうちにしるされているすべてのことを守り行うためである。そうすれば、あなたのすることで繁栄し、また栄えることができるからである。」

ヘブル10：24-25「10:24 また、互いに勧め合って、愛と善行を促すように注意し合おうではありませんか。10:25 ある人々のように、いっしょに集まることをやめたりしないで、かえって励まし合い、かの日が近づいているのを見て、ますますそうしようではありませんか。」

クリスチャンクラブのモットーとなっていたのはテモテ第二2：15でした。

「2:15 あなたは熟練した者、すなわち、真理のみことばをまっすぐに説き明かす、恥じることのない働き人として、自分を神にささげるよう、努め励みなさい。」

真理のみことばをまっすぐに解き明かす。努め励む。恥じることのない働き人。

神にささげる。すべて大切な戒めです。

大学時代、アリストア牧師が皆さんに勧められたテーマ別暗唱聖句も知りました。大学時代は暗唱用の箱入りのカードを買って、10箇所くらい覚えしました。そのいくつかは先ほど引用した箇所です。他の箇所には、次のものが含まれます。

ガラテヤ 2:20 「私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が肉にあって生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。」

詩篇 119 : 9, 11 「119:9 どのようにして若い人は自分の道をきよく保てるでしょうか。あなたのことばに従ってそれを守ることです。… 119:11 あなたに罪を犯さないため、私は、あなたのことばを心にたくわえました。」

この詩篇の箇所は、私にとって欠かせない大切なみことばです。若い男性には多くの誘惑があります。皆さんもおわかりでしょう。このみことばが若い時に私をあらゆるトラブルから守ってくれました。そのみことばが深く心に刻まれているので、ずっとトラブルから私を守ってくれています。

大学時代は 60 個所の聖句をすべて暗唱しませんでした。4 年前にアリスティア牧師から聖句暗唱の勧めが教会でありました。それで、今回はやり遂げました。とても良い経験になりましたし、思ったほど難しくはありません。少しずつやれば、大きなことも成し遂げられます。この 60 個所の聖句は、12 個所ずつ 5 つに分けられていて、その 12 個所も 6 つのペアに分かれています。それぞれのペアに特定のテーマが関連付けられています。

新しいいのちを生きる	キリストを宣べ伝える	神の豊かさを信頼する	キリストの弟子となる	キリストの似姿に成長する
キリストが中心 2コリント 5:17, ガラテヤ. 2:20 キリストへの従順 ローマ. 12:1, ヨハネ 14:21 みことば 2 テモテ. 3:16, Josh. 1:8 祈り ヨハネ 15:7, ピリピ. 4:6,7 交わり マタイ. 18:20, ヘブル. 10:24-25 証 マタイ. 4:19, ローマ. 1:16	すべての人は罪を犯した ローマ. 3:23, イザヤ書 53:6 罪の罰 ローマ. 6:23, ヘブル. 9:27 キリストが罰を受けた ローマ. 5:8, 1 ペテロ. 3:18 救いは行いによらない エペソ. 2:8-9, テトス 3:5 キリストを受け入れる 必要性 ヨハネ 1:12, 黙示録. 3:20 救いの確信 1 ヨハネ 5:13, ヨハネ 5:24	神の御霊 1 コリント. 3:16, 1 コリント. 2:12 神の力 イザヤ書 41:10, ピリピ 4:13 神のまこと 哀歌 3:22-23, 民数記 23:19 神の平安 イザヤ書 26:3, 1 ペテロ. 5:7 神の備え ローマ. 8:32, ピリピ. 4:19 誘惑における神の助け ヘブル. 2:18, 詩篇 119:9,11	キリストを第一にする マタイ. 6:33, ルカ 9:23 世と Separate From the World 1 ヨハネ 2:15-16, ローマ. 12:2 Be Steadfast 1 コリント. 15:58, ヘブル.12:3 人に仕える マルコ 10:45, 2コリント4:5 惜しみなく与える 箴言3:9-10, 2コリント9:6-7 世界的視野を持つ 使徒 1:8, マタイ.28:19-20	愛 ヨハネ 13:34-35, 1 ヨハネ 3:18 謙虚 ピリピ 2:3-4, 1 ペテロ. 5:5-6 きよさ エペソ. 5:3, 1 ペテロ. 2:11 正直 申命記 19:11, 使徒 24:16 信仰 ヘブル. 11:6, ローマ. 4:20-21 福音 ガラテヤ. 6:9-10, マタイ. 5:16

私は、12 個所のひとかたまりを覚えるとき、まずその全体のテーマと 6 つのテーマを覚えました。それから、それぞれのペアを覚えていきました。シャツのポケットに暗唱用のカード 12 枚または 2 枚セットを持ち歩き、朝、駅に歩く間、カードを取り出して覚えるようにしました。エスカレーターに乗ってホームで電車を待っている間も覚えようとしました。そして、20-30 分ほど電車に乗っている間は、覚えられたかどうか確認するのに使いました。家でも、夕食後、妻が皿を洗って私が皿を拭くのですが、その間にキッチンのカウンターにカードを 2 枚置いて覚えます。ちょっとした合間に聖句を暗唱するチャンスは一日に何度もあります。皆さんにもお勧めします。アリスティア牧師は、暗唱聖句を完了した人にはスタディバイブルをプレゼントすると言われたので、私はこの素晴らしい ESV 訳スタディバイブルをいただきました。説教の準備を含め、いろんなかたちでスタディバイブルを活用しています。このスタディバイブルに記された解説は、聖書解釈で取り上げられるあらゆるテーマについて私の意見と合致しています。

まだまだお話ししたいことはありますが、先に進めましょう。

方法 6: キリスト教の説教や講義を聞く。

聞けば聞くほど、神のみことばを心と思いに取り入れることができます。私たち双子兄弟の人生にとって、非常に大事な出来事がありました。人生を変えたと言っても過言ではありません。私たち兄弟

は UCLA に進学しましたが、そこでジョン・マッカーサー師の教会を勧められました。そして、兄はある人からマッカーサー師のメッセージテープを箱一杯分いただきました。おそらく 100 本以上あったでしょう。大学 1 年を終えた夏、1978 年のことでしたが、私たち兄弟はサンディエゴの実家に戻りました。父は、夏休みのアルバイトに、と家中のペンキ塗りを私たちに言いつけました。私たちは、ラジカセと長い延長コードを持ってきて、その 100 本ほどもあるテープをペンキ塗りの間中ずっと聞きました。大きな家だったので、2 回聞いたテープもあります。その夏は私のクリスチャン人生の素晴らしい土台となったと言えます。そのテープから数々の神学を学びました。二年後の夏、すべてのテープを聞き尽くし、クリスチャンラジオを聞き始めました。多くの素晴らしい説教者の説教を聞きました。そこから、機会があれば基督教のメッセージを聞く習慣が始まりました。特に、家事をする間そうします。散歩が好きなので、散歩中にテープを聞けるようにと、1990 年代には、ウォークマンを買いました。2000 年代に入ると、iPod を買いました。引き続き、基督教のメッセージを聞くためです。

聖書を読んで、目からたましいを養うだけでなく、メッセージを聞いて、耳からもたましいを養うのです。

方法 7: (今日お話する最後の方法です。) 一日何度も聖書に触れる。

20 代のころ、私は朝起きるとすぐに詩篇を一篇読み、寝る前にも詩篇を一篇読んで短く祈りました。それから、一日のいつかの時点で、聖書を 30 分ほど読むようにしていました。ですから、一日に何度か聖書に触れ、霊的な栄養を得ていました。一日の間にはあらゆる事が起こるので、私たちの思いが主に対する思いから離れていってしまいます。ですから、主を思うところに立ち戻りたいのです。そういうわけで、一日に何度もみことばに触れます。ここ数年、私は通勤電車の中で聖書を読み、昼食時か夜に短いデボーション誌を読むようになりました。デボーション誌はたくさんあります。印刷版もあれば、ネット上で見れるものや、メールで定期購読できるものもあります。そういうものをいろいろ利用しています。先ほども言いましたが、それに加えて、家事をしている間は基督教のメッセージを聞きます。

さて、メッセージも終盤です。今日のメッセージのテーマは、「キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住ませなさい。」でした。心と思いにみことばを取り入れる方法をいくつかご紹介し、読んだみことばを実行するようお勧めしました。どうか、知識を積むためだけに聖書を読まないでください。

先ほど引用したヤコブの手紙の聖書箇所を覚えておられますか。ヤコブ 1:22 は「また、みことばを実行する人になりなさい。自分を欺いて、ただ聞くだけの者であってははいけません。」と語ります。そして 25 節には、「ところが、完全な律法、すなわち自由の律法を一心に見つめて離れない人は、すぐに忘れる聞き手にはならないで、事を実行する人になります。こういう人は、その行いによって祝福されます。」とあります。

私はみことばを実行する人になることを目指してきました。そして、25 節のみことばが真実であると確信をもって言えます。

最後に今日の説教を使徒ペテロの第二の手紙から、信仰生活において成長し続けることの大切さについて教える箇所を引用して終わります。

ペテロ第二 3:18 「私たちの主であり救い主であるイエス・キリストの恵みと知識において成長しなさい。このキリストに、栄光が、今も永遠の日に至るまでもありますように。アーメン。」